

OLSスキルアップ

日 時	2026年9月13日(日) 8:50 ~ 10:20
会 場	第1会場 (1F 展示ホールB)
座 長	石橋 英明 (医療法人社団愛友会伊奈病院)、池田 聡 (医療法人健愛会健愛記念病院)
単 位	日本骨粗鬆症学会：マネージャー教育研修単位

3-SY26-1

骨粗鬆症マネージャーのための転倒予防実践ガイド

木村 孝、黒川 正夫 (大阪府済生会吹田病院 リハビリテーション科／整形外科)

評価点数の高低にとどまらず「なぜその点数になるのか」を実際の動作から読み解き、個別の運動療法・指導につなげる理学療法士ならではの視点を提示。「骨を守る」薬物療法・栄養管理と「歩みを守る」運動療法の三位一体で二次性骨折の連鎖を断つ。

3-SY26-2

マネージャーのための栄養指導の基本

若野 知恵 (大阪府済生会吹田病院)

骨粗鬆症マネージャーに占める管理栄養士は約3%にとどまる。カルシウム・ビタミンD・たんぱく質を中心に骨代謝と筋機能への影響を整理し、サプリメントの有用性と限界、短時間で確認できる食事評価のチェックポイントを紹介する。

3-SY26-3

マネージャーのためのDXA、検査データの解釈と説明 – ライフステージを考慮した実臨床におけるFLS –

田中 瑞栄 (地域医療振興協会 練馬光が丘病院)

450床の急性期・回復期病棟を有する病院で、大腿骨近位部骨折術後を中心にOLSを展開。DPC下での薬剤の制約、回復期病棟からの治療開始、退院後の骨粗鬆症ウィメンズヘルスケアセンターでの評価につなぐ流れと、X-P・骨密度の解釈と患者への伝え方を検討する。

3-SY26-4

OLSチームに関わってみて感じたこと – 骨を愛する心理士の視点から

筒井 奈佳子 (新潟リハビリテーション病院)

2013年よりFLSを導入、2019年頃から臨床心理士が多職種と連携して脆弱性骨折患者に関わる。骨の知識を得た患者が主体的に再骨折予防へ取り組む一方、不安や警戒心が強く支援の受け入れに時間を要する患者もあり、心理的支援の在り方を共有する。

3-SY26-5

骨粗鬆症治療の「落とし穴」を回避する

小池 達也 (白浜医療福祉財団骨リウマチ疾患探索研究所)

BP関連顎骨壊死 (ONJ)、非定型大腿骨骨折 (AFF)、デノスマブ中止後の反跳性椎体骨折、低カルシウム血症、腎機能悪化などを網羅。リスク因子とモニタリング指標を整理し、歯科連携、drug holidayの個別化、中止時の速やかな切替えなど実務指針を示す。